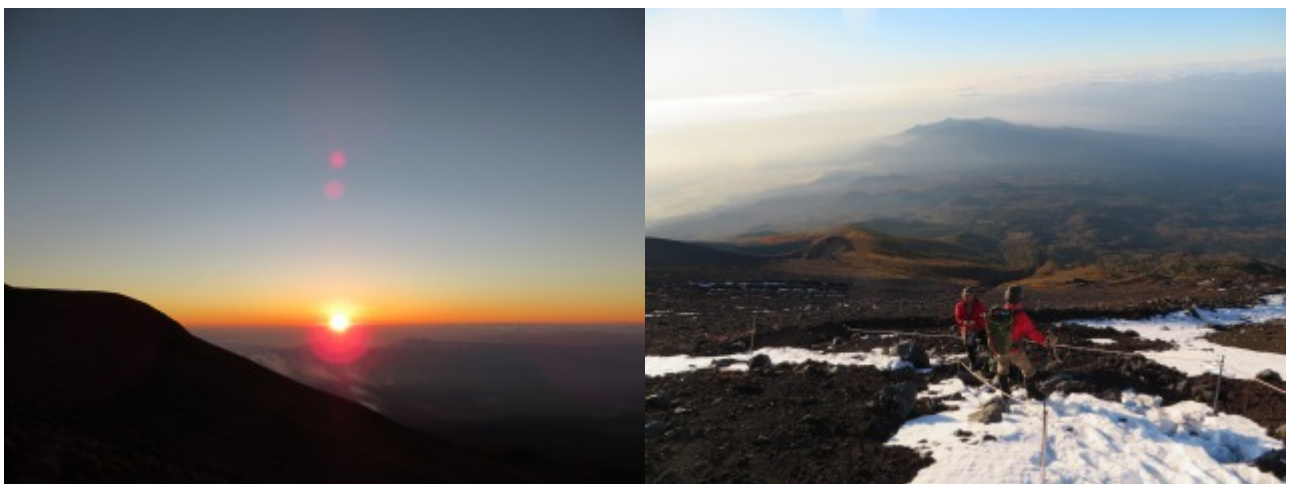


裾野麗峰山の会・山行報告書		文・写真 後藤
山行番号	NO. 1952	
日時	2021年10月30日(土) 晴・無風	
山域	富士山山頂(3776m)	
コース	富士宮口・五合目発 5:14 ー八合目 8:14 ー九合目・萬年雪山荘 9:05 ー九合五勺 9:48 ーブル荷上げ道ー山頂 11:11~40 ーブル道ー九合五勺ー日沢ー七合目 12:54 ー五合目 14:10 ー長泉	
累計標高差	上り・下り 五合目約 2350m~山頂 3776m=約 1426m	
快適度	5段階=5	
難易度	非常に困難 困難 レやや困難 普通 やや易しい	
富士山は、何度上っても厳しい		
参加者	後藤、加藤、井上=3名	

この時期、毎年、富士山頂に上る。手軽で一番行きやすい雪山は富士山だ。道路が通行止めになる前に速やかに上る。(今年は、11/10で通行止めになった)しかし、加齢と共に年々、厳しくなる現実。

三名で金曜日から出掛ける。天気は良かった。五合目に上がる。モーレツに寒い。ガッチリ着込んで、早々にテントに入りチビチビ。ようやく体が温まった。夕餉は、味噌仕立ての鍋。

野菜は、私の畑のハクサイ・ダイコン・シュンギク・ほか購入物のシイタケなど。夕食が終われば寝るしかない。19時ころ寝てしまった。夜半、ガキどもが駐車場でおしゃべり。五月蠅くて堪らない。我慢の限界で漸く退散。



日の出

土曜日4時起床。モーレツに寒い。テントが凍っていた。車のフロント・ガラスもガジガジ。マイナス10度くらいか。鍋を温め持参したゴハンに掛けてオジヤをいただく。なかなか腹に収まらないが、無理やり押し込む。でないと歩けない。



この時期、雪は多い

5時14分登山開始。試練が始まった。まだ夜が明けない真っ暗。ズリズリのスコリア（火山礫）を上る。新六合を過ぎると早くも雪が出て来た。兎に角、今年は積雪が早い。雪はカチンカチン。本六合下でアイゼンを履いた。その方が安全で速い。

二人でグングン上る。ただ、若手のI君が不調。彼は私より二回り若い。今日は、たまたま彼の母君の誕生日。そして、彼は10回目の富士山登頂を目論んでいた。しかし、どうしたことか、体がいうことを利かない。えええ～、こんなことある??!!原因は鍛錬不足ようだ。

彼の前回の登山が10月2日のキノコ狩り。約一か月山に行ってなかった。その間、我々は、石裂山、那須10時間周回、西天狗岳・西尾根周回、ほかと、やや厳しい山をやっている。いくら若いとはいえ、鍛錬不足は否めない。

ただ、我々は那須・西天狗は平日山行。仕事がある方とは一緒に行けない。しかし、休日はある訳だから、それはそれで工夫して臨むべき。私は大昔、車がなくてバイクで丹沢などよく行ったものだ。人間、その気になれば、何でも出来る。

I君はマイペースで来て貰う。七合付近で脇腹が痛くなった。朝はトイレを済ませたが、最近では珍しい。小屋の裏で用を済ませた。そのままでは、申し訳ないから。全て回収した。天気は相変わらず安定していた。風はなく温かかった。

富士山・富士宮口は八合までが特にキツイ。富士山は、というか、高山は3000mがキツイラインといわれる。科学的根拠は、不明だが、恐らく、日本の山岳は富士山以外、3000m多いからだろう。

3000m以上の経験が少ないから、それ以上の富士山の標高は厳しいとなる。八合目は約3250m。確かにキツイ。これを越えると、九合～九合五勺～山頂となり気持ち的・精神的にグッと楽になる。(あくまで気持ち・精神) 肉体は当然、厳しい。

この辺りは、登山者が「サッサ、サッサ」と上っている人は皆無。概ね全員、下を向き黙々と牛歩の如く上っている。大げさにいえば、「三步上って、二歩下がる」の感じなのだ。ま、これも仕方がない。



九合五勺

漸く九合五勺に来た。標高は約3600m。あと約一時間。今年、6月5日に上った記録に比べると約30分速かった。ルートはここで直上ルートとブルトナー・トラバース道に分かれる。

I君に、「ブル道を行く」と伝えてあるので、予定通り進む。ブル道は、歩き易かった。殆どの登山者は、このルートを知らないなので、直上ルートを上る。ブル道は少し速く楽。剣ヶ峰が見えた。雪は多く無かった。風が強いので飛んでしまうのだ。

山頂は、今年初めてだった。6月は仲間が不調で九合五勺から一緒に下った。何回来ても山頂は素晴らしい。日本で絶対的な標高。日本では3776mの標高はここでしか経験できない。貴重な存在。山頂着。5時間57分だった。最近の過去の記録は・・・。

2016年05月08日(69歳)・・・・・・・・5時間29分

2017年05月20日（70歳）・・・・・・5時間14分
2018年05月12日（71歳）・・・・・・5時間49分
2019年06月14日（72歳）・・・・・・5時間12分
2020年・・・・・・記録なし
2021年06月05日（九合五勺まで）・・・・6時間12分（この時間は仲間の記録）
2021年10月30日（74歳）・・・・・・5時間57分

こうして記録を見ると、勿論、春・秋とメンバーで条件は違うが、年齢を重ねても案外、大きな差がある訳でもないことが分かる。果たして、80歳まで頑張れるか??!!



山頂は近い

山頂に着いた。5時間57分。かろうじて6時間を切った。毎回、苦しい登山。富士山で楽な経験はない。陽だまりで昼食。ムスビはカチカチでダメ。相方のサンドイッチが辛うじて喉を通った。ピアを一本やった。風が無く有難い。

I君にメールを入れる。八合まで上ったの連絡。その後、九合五勺から再メールで「九合から下山する」と返信が来た。無事よかった。ズック履きのランナー三名と交流。上りは2時間半といった。荷物を持たせて貰ったが片手で持てた。勿論、ピッケル・アイゼンはない。「この天気であれば上れなかった」という。以前、宝永山でトーキョーのランナーと交流して、サンダル履きの女子がいたと話したら、「あ、〇〇ちゃんだ」と知っていた。



ランナーチーム

次に上って来た男性の靴は、革靴にワンタッチ・アイゼンを装着していた。革靴のフロントは、そのままOK。テールに金具を付けていた。金具は「ゴロー」で購入出来るそうだ。これは革靴の方は朗報だろう。



革靴ワンタッチ・アイゼン（ちょっと分かり難い）

山頂で30分ほど滞在し下山。当たり前だけど下山は楽だ。九合五勺までブル道を下る。丁度、ランナーも富士宮鳥居から下って来た。ここから、我々は6月スキーで滑った日沢を下る。日沢



日沢を下る（もう少しでスキーが可）

も知らないと下れない。多くの方は登山道を下る。先に何処かのオヤジが一人下っていた。ピョンピョン速かった。結局、日沢は頂上から五合目まで2時間半だから、速いは速い。やっぱり富士山は、積雪期に上るべきだ。

五合目でI君と合流。30分前に下ったという。九合五勺の滞在中、他の登山者と交流をしたという。スキーヤーもいたという。まだまだ、完璧な積雪でないが、多少、板の犠牲を我慢すれば、滑れるは滑れるだろう。

今回の富士山は、マアママだった。次回はランナーのように、もう少し軽快に上れば、サイコーと思うのだが・・・。

I君のコメント

九合までの時間は前回3時間44分でしたが、今回は4時間35分でした。さらに登っていたら前回よりひどい下山困難になっていたと思います。

昨日は、気持ち悪く、吐きそうで、頭はクラクラし、5歩歩いては、立ち止まっていました。たちどまると息が激しくなり、動いている方が楽なのに5歩しか歩けず最悪でした。

反省としては、体作りができてなかったことです。1か月ぶりの登山でそれも前回・前々回はキノコ採りだったので、ちゃんとした山は3か月ぶりでした。夏の猛暑と雨、仕事の残業と言いつ材ばかり。自業自得です。

(了)